

診療スタイルの変遷 ②

Key word

主役は「産婦さん」+「助産師さん」
(お産は自然な営み)

30

妊娠中

診察にはもっと時間をかけて欲しい
もっと分かり易く説明して欲しい

入院中・分娩時☞ 自然分娩志向

病院のスタッフにそばに付いていて欲しい
夫に側に付いていて欲しい
入院中は楽しく過ごしたい

・産後・育児中☞

身近に相談できるプロ・セミプロがいて欲しい
電話での相談に乗って欲しい
仲間同士のコミュニケーションの場が欲しい

31

- 施設内勤務の助産業務の確立に腐心
- 看護師とは違う助産業務の確立が必要では
- このままでは若い助産師の自立は望めない
→助産師の仕事に魅力を失ってしまう
- 総合病院に勤務する助産師でも、当たり前前の助産師業務が行えれば、助産師の仕事に魅力を感じ、助産師としての自立性を保つことが可能である

産科医(男性)として「性」の違いからくる、サービス・サポートにいささか限界を感じるようになった
 超多忙な診療状況→診療体制の変革に暗中模索
 点と点で結ぶ分娩の進行管理に主眼を置いてしまう
 四六時中産婦さんの側において励まし続ける事は困難

- 医学的なアドバイスはできるが、子供の事、夫の事、嫁姑の愚痴などの話し相手までは相談に乗ってあげられない(女は女同士が一番)

産科医 ⇨ 「自立した助産業務をみたい」、どのあたりを要望

産科医 ⇨ 産科学主導の分娩管理に、自分自身でもいささか満足できない

自答 ⇨ ・メリット・デメリットは？

- ・ あらためて、産科医と助産師の関係とは？
- ・ 正常と異常との区別は間違いないか？
- ・ 産科医のバックアップ体制はどうあるべきか？
- ・ 親しい先輩にも相談してみたが？

CHANGE

結論

⇨ 「私が最終責任を取ればよい。やってみよう！」

清水の舞台から飛び降りんばかりの決断でした（当時の心境）

「安全なお産」から

↓
「心の通った安心できるお産」へ

↓
Key word



助産師外来

産婦人科の紹介

診療実績の紹介

周産期医療の現状

一産科医の苦悩・変遷、そして「助産師外来」

総括：

新しい産科診療スタイル＝助産師外来とは

36

概念：

正常範囲の産科診療は全て助産師が行う

外来では妊婦健診から助産師が行う

その顔見知りの助産師がお産も取り上げる

ただし、合併症などを持つハイリスク妊婦さんは

産科医師が関わる

→ 同じ助産師による妊娠中から分娩まで、さらには、
産褥までの、継続性のある一貫した助産業務の実
践が総合病院で行えるシステム

37